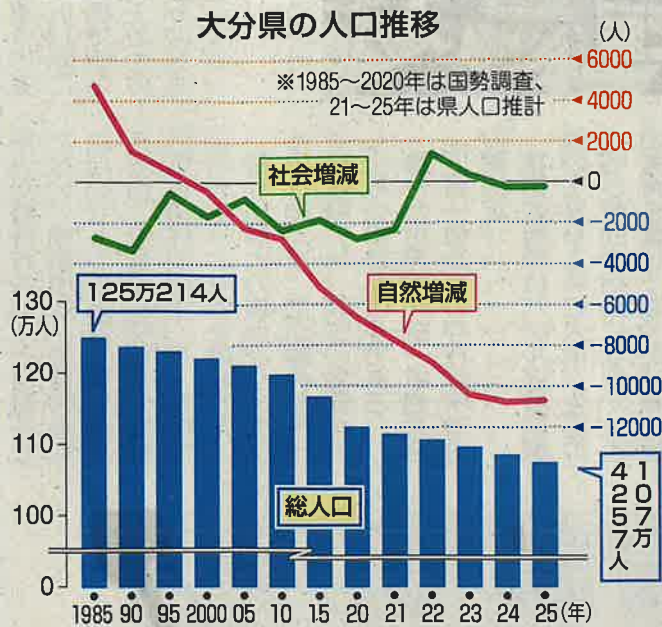


県人口最少107万人

25年推計 1万941人減



大分県が18日に公表した2025年の人口推計(10月1日時点)によると、県人口は107万4257人で、24年から1万941人(1.01%)減り、戦後最少を更新した。死亡が出生を上回る「自然減」は3年連続で1万人を超えた。転出が転入を上回る「社会減」は2年連続。人手不足を背景に17市町村で外国人の転入者は増えた。

県人口の減少は31年連続。24年10月から25年9月末までの出生、死亡、転入、転出を集計した。内訳は、

※人口は25年10月1日時点。減少数(率)は1年前との比較。
単位は人、%

	人口	減少数(率)
大分県	1,074,257	10,941(1.01)
杵築市	12,864	340(2.57)
玖波町	7,504	276(3.55)
九重町	27,005	219(0.80)
姫島町	1,468	42(2.78)
国東市	23,650	582(2.40)
由布市	32,223	57(0.18)
豊後大野市	30,251	795(2.56)
宇佐市	48,969	927(1.86)
杵築市	25,420	400(1.55)
豊後高田市	21,205	194(0.91)
竹田市	17,906	503(2.73)
津久見市	13,919	392(2.74)
臼杵市	32,726	756(2.26)
佐伯市	60,497	1,309(2.12)
中津市	57,971	910(1.55)
津田市	80,353	291(0.36)
分府市	111,388	1,068(0.95)
大分市	468,938	1,880(0.40)

市町村別の人口

男性が51万2528人(24年比4504人減)、女性

は56万1729人(同6437人減)。全18市町村で3年連続の減少となった。

少子高齢化の加速により、自然減は1万719人。

死亡数は1万6533人と373人減ったものの、出生数も5814人と297

人の減。出生数は過去最少になった。

社会減(外国人含む)は222人で、12市町村で転出が転入を上回った。大分、別府、中津、豊後高田、由布、日出の6市町は社会増を記録した。

統計を取り始めた22年以降、外国人の転入超過が続

背景には製造業、農業などで特定技能制度を活用した働き手の増加があるとみられる。

県は「35年まで100万人台の維持」を目標に掲げる。出会いから結婚、出産、育児まで切れ目のない支援や、移住を促す事業を進める。

だが、人口減少に歯止めをかけられないのが実情だ。おおいた創生推進課は「より住民に近い市町村との連携強化が抑止の鍵を握る。若者や女性にとって働きやすく、暮らしやすい地域づくりを進めていく」と話した。(江藤嘉寿)

県によると、県人口は1955年の127万人をピークに減少期に入った。71年から再び増加が続いたものの、85年(125万人)以降はほぼ一貫して減り続けている。